

子どものネット依存を防げ 生徒会で利用5カ条定める 情報モラル教育や研修会も実施

問 子どものインターネット等への依存に対する認識と、保護者や関係機関との連携強化など、依存症予防や対策について聞く。

答 インターネットの過度な利用は、児童生徒の日常生活や健康に悪影響を及ぼす大きな課題と認識している。学校ではインタ...



家庭内でもルール作りを

インターネットの適正な利用を身につけさせるため、技術家庭科の授業で利便性や危険性を踏まえた情報モラル教育や、PTAと連携したネット問題の講演会を開催している。また、市内13中学校の生徒会役員がネット利用の5カ条を全中学校共通の基本ルールとして定め、生徒自らが利用時間などを管理し、利用マナーの向上に取り組んでいる。さらに、児童生徒がインターネットを利...

市立幼稚園・保育所の 見直しを計画 市民への周知を

問 明石市立就学前教育・保育施設再構築基本計画案が示されたが、早急に進めてよいのかという疑問や不満の声が地域から寄せられている。今後どう対応するのかを聞く。

答 平成27年12月議会の文教厚生常任委員会で示した基本計画案は、市立幼稚園・保育所の...

用するのは家庭生活の中が多いため、保護者に対し中学校入学時にリーフレットを配付しネットトラブルの危険性を伝えたり専門家による研修会を実施するなど、児童生徒が急速なインターネット社会の進展に対応できる力を育んでいく。

放課後児童クラブ 待機児童解消へ 柔軟に対応

問 放課後児童クラブの待機児童について、今後の見通しと対策について聞く。

答 保護者が就業等によ...

民間への移管や廃止を進め、20年後には全ての施設を認定こども園とするものだ。計画案を公表して以降、子ども・子育て会議や、パブリックコメントを通じて、多くの市民から広く意見を頂いており、その中には、幼稚園の存続を希望する意見や、計画内容を広く市民に周知してほしいとの意見が多数あった。28年度以降、各地域で説明会を開催するなど、まずは基本計画の周知を図り、その上で改めて対象となる施設や実施年度を示していきたい。

協働のまちづくり 市民活動コーナー さらなる充実へ

問 協働のまちづくり推進条例が平成28年4月に施行されるが、今後の市民活動支援について聞く。

答 本市では、アスパ...

り昼間家庭にいない小学生が利用する放課後児童クラブを、全小学校区に設置している。平成28年度の入所希望者は現時点で2668名であり、8クラブが施設定員を上回っている。定員を超過するクラブについては、施設定員の弾力的運用のほか、学校の多目的教室やコミセン会議室の一時利用により、全ての入所希望者が利用できるよう努めている。今後入所希望者は増加すると予想され、将来にわたって放課後児童クラブを安定的に運営するため、市が委託している運営委員会の体制の充実を図るとともに、NPO法人や地域団体などへの委託も研究していく。

今後は、条例の施行を踏まえ市民活動コーナーの機能をさらに充実させ、生涯学習と市民活動の連携、市民同士、また市民と行政の協働の場になるようなスペースを同センター8階に確保できないか協議しているところだ。そこでは、男女共同参画、文化芸術、国際交流に取り組み活動団体など、相互の交流が進むような支援を行う予定であり、29年度を目標に施設の運営方法や行政側も含めた体制を整備していく考えだ。

和坂の交通跡跡地での工事再開の意向を示したところだ。今後想定しているスケジューリングは、28年6月議会で建設費に係る補正予算議案、9月議会に契約議案を提案し、可決されれば10月から建設工事に着手できると考えている。工事に要する期間は30年1月頃までを見込んでいく。このほか、29年度までに各中学校の配膳室を整備することや、導入前の調理訓練などさまざまな準備が必要だが、できるだけ早期に実施できるように努めていく。

動物と共生できるまちづくり

殺処分ゼロへの取り組み

問 動物と共生する愛情豊かなまちづくりに向けた市の考えを聞く。

答 本市は、平成30年4月に中核市へ移行した場合、動物の愛護および管理に関する法律に基づき事務の移譲を県から受けることになる。

現在、具体的な事務内容や動物愛護センターの設置などについて県と協議を進めるとともに、殺処分をゼロにする目標に向け先進的に取り組む川崎市や北九州市、熊本市への視察を行い、調査・研究を

進めているところだ。全国的にも動物愛護の問題が重要な課題となっている中、殺処分される動物を減らすためには、正しい飼い方に関する啓発をはじめ、地域猫活動や新しい飼い主への適正譲渡などを進めていくことが必要である。こうした取り組みは、行政だけで



人と動物が幸せに暮らすまちへ

請願

- ▽採択された請願△
- 精神障がい者にも他の障がい者同様の交通運賃割引制度適用を求める請願
- ▽不採択となった請願△
- 「市議会だより」の抜本的改革を求める請願

意見書を提出

意見書1件を可決し、政府・関係機関に送付しました。以下はその要旨です。

◎精神障がい者にも他の障がい者同様の交通運賃割引制度適用を

障害者基本法では、精神障がい者は身体障がい者や知的障がい者と同じ位置付けであるにもかかわらず、現状では多くの交通運賃割引制度が精神障がい者には適用されていない。多くの精神障がい者にとって、交通費は大きな負担となっており、作業所への通所回数を減らしたりするなど行きたい場所があっても外出を控えているのが現実である。

よって、国に対し、精神障がい者にも交通運賃割引制度を導入するよう、鉄道事業者、バス事業者等の公共交通機関に対して、広く働きかけを行うよう強く要望する。

議員ふもやま話

明石には104個のため池があります。農業用水確保のために造られた人工の池は、長い年月が経つうちに多くの生き物の命を育む場所になりました。春から夏、ヒシやハス等の水草が池一面に広がり、まるで緑のじゅうたんを敷き詰めたように美しく輝きます。カイツブリという水鳥が浮き巣を作って子育てするのもこの季節です。



カイツブリの親子

ため池の水は、350kmにも及ぶ水路で市内の隅々までつながり、田んぼや川、海へと流れていきます。栄養たっぷりの水は海の生態系を保つために役立っているそうです。「水でつながる明石の自然」と言われる由縁ですね。

この春は、郷土史の本を片手に先人の知恵と志に思いをはせながら、私たちの命の源であるため池と水の路を巡りたいと思います。